

## 令和3年度 高浜小学校の学校経営について

### (1) 本校の教育目標

心身とも健やかで、たくましく生きる力をもつ子どもを育成する。

○思いやりの心をもつ子    ○健康なからだをもつ子    ○進んで学ぶ子

### (2) 経営方針

#### 【目指す子ども像】

「(人・もの・ことに)主体的にかかわり、仲間とともに伸びようとする子」

#### 【目指す教師(組織)の姿】

- ・日頃から子どもの変容を見逃さず、よさを見出せる「教師のまなざし」を磨き続ける。
- ・子どもの「学びがつながる」ように、1年間の成長や6学年の発達段階を見通した取組を行う。
- ・教職員・保護者・地域の方とコミュニケーションを深めることで課題や目標を明らかにし、協働して、目指す子ども像の「日常化」を図る。

### (3) 本年度の重点目標

#### 1 子どもの主体性を育てる指導部の取組の充実

「挑戦課題としての学校行事」、「長幼の意識・行動力を高める異学年交流」、「自治活動としての児童会活動」、この三つは重なる部分があり、うまく関連させ、子どもの主体性を育てるよう、各指導部が提案していく。

しかし、行事の精選、活動時間の削減が進み、子どもが主体的に活動するのを待つ十分な時間はない。そこで、活動内容を絞ったうえで、重点的に取り組んでいく。また、1年間で期待される子どもの成長、学年ごとの目指す子ども像を掲げ、共通理解したうえで取り組んでいく。さらに、前年度の振り返りをもとに、問題を見つけ、子どもたち自身が学校生活をよりよくするための提案ができるよう、効率よく指導していく。

○5年緑の学校 10/12 (美浜自然の家 日帰り・バス2倍)

○6年修学旅行 10/19, 20 (京都奈良 1泊2日・バス2倍)

○校外学習 10/12

○運動会 11/20 (学習発表会は運動会と時期が重なったため、中止)

○書き初め会 1/11 (書初め展は行ったが、21日に予定していた授業参観は中止)

○漢字コンクール 7/9・2/18 計算コンクール 6/18・12/3

○児童会

(ペア交流会、児童会チャレンジキャンペーン、輝け三つの思いの会、あいさつ運動)

○各種委員会の取組 (ゼロけが週間、すいせん読書週間、残菜ゼロ週間等)

#### 成果と課題

○コロナ禍での行事になった。感染防止のため子ども達自身どう行動すればよいか、事前に考えていた。制約が多かったが、コロナ禍に慣れている児童は、それぞれが意識を高くもって行事に臨むことができた。

○運動会前日に6年生の演技を観る「輝け三つの思いの会」をもった。このとき児童会役員のスピーチで運動会に対しての気持ちを高めることができた。

○児童会はコロナ禍で活動が難しい中、2学年ずつのペア交流会を企画運営し、名刺交換やクイズなどで会を盛り上げた。また、チャレンジキャンペーンでは、一人一人が目標をつくり、達成できたら、判子をうちビンゴを完成させる取組を行った。多くの子が自主的に参加することができた。あいさつの声が小さいことが課題だと考えた役員たちは、あいさつ運動を展開した。

○各種委員会は、自分たちで考えて今の課題に取り組んだり、今までの活動をよりよくしようとしたりすることができた。

## 2 主題に迫る授業力の向上

### (1) 主題研究は心を育てる道徳教育に取り組む

本校は、長年、「仲間とともに考えを深める」授業づくりを目指してきた。その土台となる学習規律の定着も図ってきた。昨年度はコロナ禍のためにあまり研究に取り組めなかったが、子どもたちや教師に根付いているものがある。これを生かすことができる。また、コロナ禍の今だからこそ、心を育てる道徳教育に取り組む意義があると考える。子どもたちの心を育てていきたい。

研究授業は、個々の教員の授業力向上に欠かせない。また、経験や専門の異なる教員同士が一つの目標に向けて話し合うことで互いにより影響を与え合うことができる。そこで、今年度は学年を低中高の3部会に分け、それぞれの部会で研究授業を行う。

### (2) 5, 6年で教科担任制を進める

これまで、図工、音楽、外国語、書写等の授業を学年外の教科担任が担当してきた。今年度は、5 6 図工、5 6 音楽、5 家庭、6 外国語を学年外の教科担任で、そして、他の教科はできる範囲で社会、理科、家庭、外国語、書写などを学級担任3人で分担して学年3学級の授業を行うようにした。これにより、教材研究の負担を減らすとともに、授業の質を高めることができる。また、中学校の教科担任制と同じように進めることで中1ギャップの解消にもつながると考える。

### (3) 高浜市『ギガスクール構想』でICT教育の充実を図る

昨年度、電子黒板とタブレットが導入されたので、本校は、子どもたちの学びを補償するために教師用デジタル教科書(理科、社会、地図帳)を購入し、学習を進めた。コロナ禍のため実験ができない時期があったが、デジタル教科書を使って実験の様子を見て学習を進めることができた。他にもよい資料が入っているため、学びを補償することができた。今年も引き続きこのデジタル教科書を使っていく。また市教育委員会に導入してもらった算数のデジタル教科書も活用していく。これによってより学力向上を目指していく。

また、タブレット内のソフト「ロイロノート」を使い、全員の意見を集約できることが、主体的な学びにつながると考える。主題研究で取り組む道徳科の授業にも大きく貢献できるものになると考える。

高浜市では、タブレットの通信方法としてLTEを採用している。これによって家庭学習において、全員が平等に学習することができる。校外学習でも使用でき、インターネットでクラス全員がつながることができる。充実した校外学習になると考える。

その他にも、入院等長い期間欠席する児童に対して、タブレットを有効に使ってみたい。

○低中高学年別研究授業(低9/24 中6/28 高11/1)

○道徳教育カリキュラムマネジメント研修

○現職教育(のこぎりの使い方研修、跳び箱運動研修)

○教科担任制

○指導者用デジタル教科書の導入(算数、理科、社会、地図帳)

○タブレットの授業での利用

### 成果と課題

○コロナ禍での研究授業なので、蜜を避けるために3回に分けて行った。結果的に人数が少なかったので意見を言いやすい雰囲気をつくることができ、授業後の協議会では多くの意見が出て、活発な議論が交わされた。

○道徳教育カリキュラムマネジメント研修で、教育活動全体で行う道徳教育についてのイメージをもち、別業を作り始めることができた。

○さまざまなことに経験が少ない教職員が増えている。図工の時間にけがが多いのこぎりの使い方についての研修を行った。技術の教員免許をもつ教職員を講師に、実

際に使う教材を用意し、のこぎりで切った。安全なのこぎりの使い方について、学ぶことができた。同様に跳び箱運動の進め方についての研修も行った。ともに好評であった。

○教科担任制を導入している。受け持った教科での授業研究に時間をかけることができ、質の高い授業になっている。また、授業研究する教科が減って、在校時間の短縮につながっている。

○デジタル教科書は、導入2年目になり、職員も使うことに慣れ、積極的に利用している。映像で確認できたり、グラフを動かしたり、拡大して確認したりとそれぞれの教科の特性に合わせた使い方をすることで、子どもたちにとって、理解しやすい授業になっている。また、わかりやすい教材になっているので、教材研究の時間を減らすことができている。

○タブレット、電子黒板の使い方の実際と利点

- ・子どもの意見を集約する際に、テキストを賛成は赤、反対は青など色を変えて、電子黒板を見ると一目で理解できるようにすることができた。
- ・集約した意見を児童にも共有できる。人前で発表することが苦手な子の意見も、みんなが知ることができた。
- ・電子黒板は、写したものに、ペンで○をつけたり、消したりできる。説明するときなど、子どもにとってわかりやすく説明することができた。
- ・言葉だけでは、音声として流れてしまい、聞き漏らすこともあったが、文字として、視覚で確認できるので、理解しやすかった。
- ・作文、意見や〇〇新聞など作成する際に、間違いや校正を消しゴムで消さずに、素早く訂正できた（消しゴムで消して書き直すことは児童にとって大きな負担となることがある）。
- ・ロイロで発表原稿を作成した際に、教師のタブレットに回答を送り、電子黒板に大きく写して、発表することができた。
- ・ワークシート等作成する際に、印刷しないで児童に配布できるので、教師の負担軽減となった。
- ・個々の課題が終わった後で、時間がある時は、eライブラリや学習アプリで自学自習をすることができた。
- ・コロナの感染予防のため、低学年の鍵盤ハーモニカの練習ができない時期には、音楽のアプリで鍵盤の指練習（音が出る）ができた。

### 3 組織力の向上を目指したミドルリーダーの育成

(1)校務分掌を通して学校全体をリードできるよう支援していく。

- ・主題研究推進委員を新たに人選し、4役と学年主任が支援していく。
- ・ICT教育をけん引する教員を人選し、環境や研修機会を支援する。
- ・いろいろな校務分掌での担当を若手教員にバトンタッチし、前任者が育てる。

(2)教育活動の充実のために行事精選や働き方改革を学校全体として進めてきた。指導部や個々の教員からもどう変えていくか、提案・実行していく機会を設けたい。

(3)新型コロナウイルス感染防止には、保健衛生、環境整備、教科指導、生活指導、行事変更、給食指導等、さまざまな対応が必要となる。それぞれ立場の教員が協働して最善の対策を立て、実行していけるよう、支援していく。

○学年で一人、主題研究推進委員を新たに人選し、四役と学年主任が支援していく。主題研究推進委員会 4/7、6/3、12/3、1/14、1/20。（低 9/24 中 6/28 高 11/1）

それぞれの会に四役が参加、低中高の研究授業の指導案づくりには、教務校務が参加。

○ICT教育担当として、この分野に詳しい教職員を選んだ。全校朝会で、話をしたり、現職研修を開く教職員のサポートをしたりする。また、教職員の授業での使い方

の相談にのっていく。

○教育活動の充実のために行事精選や働き方改革を学校全体として進めてきた。指導部や個々の教員からもどう変えていくか、提案・実行していく機会を設ける。

○新型コロナウイルス感染防止のための対策を立て、さまざまな立場の教職員を支援していく。  
(随時)

#### 成果と課題

○研究推進委員会では、活発な議論ができた。それぞれの学年で、委員会での話を還元した。また、低中高の研究授業では、中心となって授業づくりを行ったり、アドバイスしたりした。

○ICT教育担当は、長期休み前の全校朝会で、情報モラルの話を数回行った。これによって、学級での担任による指導が、子どもの中に入りやすくなり、指導校かがあがった。また、研修でタブレットを使う教職員のサポートで、研修をスムーズにすすめることができた。

○働き方改革への意識を高めるために、職員会後に教職員に考える機会をつくった。(別紙)

○新型コロナウイルス感染防止対策は、全教職員の協力が必要であり、また、教科によって注目する点の違い、校務分掌によっても違う。それぞれの教職員がそれぞれの立場から感染防止のために活動した。

#### 4 目指す「高小っ子」を育てるため、家庭・地域・幼保中との協働

(1)学校行事やたより、ホームページ、PTA行事等を通じて、高浜小学校が目指す子ども像を学校・保護者・地域で共通理解する。

(2)異校種連携を継続し、1・2年間の学びの連続性を担保する。

(3)高浜小学校等整備事業が昨年度末に完結した。地域交流施設「たかびあ」の運営会議に、継続して参加し、関係団体との関係を作っていく。また、まち協の運営にも参加していくことで、教科や総合的な学習の時間等において、学校が必要とする支援を依頼していく。

#### 成果と課題

○コロナ禍で行事が難しかったが、時期をずらしたり、形を変えたりと工夫して行うことができた。特にPTAのイベントは、体育館で1学年ずつ音楽を聴く「子ども音楽会」を企画運営し、子どもたちを楽しませることができた。

○1年生活科など、子どもたちが楽しみにしている異校種連携は、できなかった。

○たかびあ運営会議には、前期は2名出席していたが、事業に区切りがつき、運営が始まって1年を過ぎて順調になってきたため、後期は校務主任の1名参加にした。

○まち協と連携が進み、5年生は、総合的な学習の時間で、あんしんグループのリーダーを講師に招き、高浜の安全なまちづくりについて話をいただいた。5年生はこの後、防犯マップを制作することができた。